

≪基本目標 1≫ 「強靱」な水道の構築

主要施策（1）安定給水の確保

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
39,660,581	36,103,022	7,912,832	44,015,854	26,919,595	15,344,775	42,264,370

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
①浄・給水場等の更新・整備					
ちば野菊の里浄水場（第2期）施設整備の推進	○				
栗山浄水場給水場化に係る施設整備の推進	○				
自家発電設備の増強施設数		○			
②管路の更新・整備					
小中口径管の更新延長		○			
大口径管路更新の実施				○	
基幹管路の整備の推進		○			

○主要施策の評価

達成状況	概ね達成している
<p>2つの項目について「達成している（100点）」、3つの項目について「概ね達成している（90点）」、1つの項目について「進展していない（25点）」と評価したことから、施策全体としては「概ね達成している（75点以上95点未満）」と評価しました。</p> $\frac{100 \times 2 + 90 \times 3 + 25}{6} = 82.5$	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況		
1. 浄水場事故割合	0回	0回	達成している		
2. 管路の事故割合	管路100Kmあたり1.0件以下	0.8件	達成している		
過年度実績	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1. 浄水場事故割合	0回				
2. 管路の事故割合	0.8件				

【評価結果の説明・分析】
1. 浄水時事故割合については、浄水場事故が発生せず目標を達成したことから、「達成している」と評価しました。
2. 管路の事故割合については、適切な維持管理や計画的な管路更新により目標を達成したため、「達成している」と評価しました。

○今後の進め方

今後の進め方	継続
<p>【評価結果の説明・分析】</p> <p>一部の事業について、入札不調や関係者との協議に時間を要したことにより、進捗が遅れが見られましたが、不調原因を分析し、入札不調への対策として柔軟な工期設定が可能なフレックス工期契約制度の活用や道路管理者等の関係者と綿密な調整を行う等、計画的に実施することとしています。</p> <p>主要施策の評価については「概ね達成している」、成果指標の達成状況については、「達成している」と評価しており、施策全体としては概ね順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。</p>	

主要施策評価シート

様式 2

○内部評価機関 (経営戦略会議)	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
における評価	(特記事項) なし

外部評価会議委員の評価	<p>「主な事業の達成状況、主要施策の評価、成果、今後の進め方」についての評価の妥当性</p> <p>A：妥当である 4人 B：概ね妥当である 0人 C：不十分である 0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の流れ、区分、評価方法に基づいて、適切に評価されている。 ・現在の評価方式を前提として、「妥当である」と評価する。評価全体に関わることとして、改善の余地があるので、次期中期経営計画に向けてより改善された評価の仕組み、取り扱いができるようお願いしたい。
外部評価会議委員の主な意見等及び局の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・「浄・給水場等の非常用自家発電設備、燃料用タンクの整備」における木下の自家発電工事の入札不調について、予測されている原因はあるか。外的要因が主要な原因である場合、原因が直ちに解消されるとは思われないが、令和4年度に、工事を進めるための特別かつ具体的な策はあるのか。 (企業局回答) 要因としてコロナ禍における資材不足や労働力不足が推測される。このため1件で発注する予定だった当該木下取水場自家発電棟外建築工事を2件に分割することで施工可能であると考えている。 ・小中口径管の更新について、耐震化率は100%を最終目標として設定されているのか。 (企業局回答) 30年間の水道施設の基本的な整備の考え方を示している長期施設整備方針の中では、耐震化率100%を達成する時期を示していないが、将来的には、管路の更新延長のペースアップを図るということは、目標にしており、今後も引き続き耐震化できるように検討して参りたい。 ・資料の計画と実績の関係の表記が分かりにくい部分があるため、改善していただきたい。 	

≪基本目標 1≫ 「強靱」な水道の構築

主要施策（2）災害に強い施設整備の推進

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
27,840,125	24,480,630	6,581,638	31,062,268	19,619,357	9,841,222	29,460,579

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
①浄・給水場等の耐震化の推進					
設備耐震化工事の実施				○	
②管路の耐震化の推進					
湾岸埋立地域の管路更新延長	○				
最重要給水施設管路の更新延長		○			
小中口径管の更新延長（再掲）		○			
大口径管路更新の実施（再掲）				○	
基幹管路の整備の推進（再掲）		○			
③停電・浸水対策等の強化					
自家発電設備の増強施設数（再掲）		○			
計装設備の電源強化施設数及び浸水対策施設数	○				

○主要施策の評価

達成状況	概ね達成している
2つの項目について「達成している（100点）」、4つの項目について、「概ね達成している（90点）」、2つの項目について「進展していない（25点）」と評価したことから、施策全体としては、「概ね達成している（75点以上95点未満）」と評価しました。	
$\frac{100 \times 2 + 90 \times 4 + 25 \times 2}{8} = 76.25$	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況
1. 湾岸埋立地域における管路の耐震化率	55.3%（令和3年度） 70.0%（令和7年度）	55.3%	達成している
2. 最重要給水施設管路（小中口径）の耐震化率	33.1%（令和3年度） 80.0%以上（令和7年度）	32.9%	概ね達成している
3. 管路の耐震化率	25.9%（令和3年度） 30.0%（令和7年度）	25.9%	達成している
4. 浄・給水場の耐震化率	98.8%（令和3年度） 99.5%（令和7年度）	98.8%	—

過年度実績	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1. 湾岸埋立地域における管路の耐震化率	55.3%				
2. 最重要給水施設管路（小中口径）の耐震化率	32.9%				
3. 管路の耐震化率	25.9%				
4. 浄・給水場の耐震化率	98.8%				

【評価結果の説明・分析】

- 湾岸埋立地域の管路の耐震化率については、令和7年度の目標達成に向け事業を進め、計画どおり令和3年度の目標を達成したため、「達成している」と評価しました。
- 最重要給水施設の耐震化率については、令和7年度の目標達成に向け事業を進め、地元住民等との調整に時間を要したことで進捗が遅れたものの、令和3年度の目標を概ね達成したため、「概ね達成している」と評価しました。
- 管路の耐震化率については、令和7年度の目標達成に向け事業を進め、計画どおり令和3年度の目標を達成したため、「達成している」と評価しました。

4. 浄・給水場の耐震化率については、令和3年度は、耐震化を完了する予定の施設がなく、耐震化率が令和2年度実績の98.8%から変わらないことから、評価対象から除外しました。

○今後の進め方

今後の進め方	継続
<p>【評価結果の説明・分析】</p> <p>一部の事業について、入札不調等により、進捗に遅れが見られました。設備耐震化工事の実施については、実施状況の遅れを踏まえて令和3年度末に令和4年度以降の計画を変更しました。大口径管路更新の実施等については、柔軟な工期設定が可能なフレックス工期契約制度の活用や、関係者との綿密な調整等により計画的に実施することとしています。</p> <p>主要施策の評価については「概ね達成している」、成果指標の達成状況については、「達成している」又は「概ね達成している」と評価しており、施策全体としては概ね順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。</p>	

○内部評価機関 (経営戦略会議)	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
における評価	(特記事項) なし

外部評価会議委員の評価	<p>「主な事業の達成状況、主要施策の評価、成果、今後の進め方」についての評価の妥当性</p> <p>A：妥当である 4人 B：概ね妥当である 0人 C：不十分である 0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・達成状況の判定等も適切に行われている。 ・ルールに従い、手順に従って適切に行われている。 ・説明内容がわかりにくいところがあるが、内部評価自体は適正に評価されている。
外部評価会議委員の主な意見等及び局の回答	<p>・木下取水場3号沈砂池、4号沈砂池の2つは令和8年度以降に更新がされるとのことだが、浄・給水場の耐震化は、2施設が終われば100%になるのか。 (企業局回答) 残り2施設を含めて100%となる。</p>	

《基本目標 1》「強靱」な水道の構築

主要施策（3）危機管理体制の充実

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
59,476	54,797	0	54,797	54,576	0	54,576

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
① 緊急時に備えた体制の充実					
非常時対応訓練の実施、テーマ型訓練の実施、支援協力員との応急給水訓練の実施	○				
本局新庁舎（仮称）の建設	○				
② 給水区域内 11 市等関係機関との連携強化					
応急給水等連絡調整会議の実施	○				
給水区域内各市との合同訓練の実施	○				

○主要施策の評価

達成状況	達成している
<p>主な事業に係る達成指標について、全ての項目で目標を達成したことから、施策全体として「達成している」と評価しました。</p>	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況		
1. 緊急時における給水体制	減・断水期間を 4 週間以内に抑える	超過件数：該当なし	達成している		
2. 各種訓練等の実施率	100%	100%以上	達成している		
過年度実績	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1. 緊急時における給水体制	超過件数：該当なし				
2. 各種訓練等の実施率	100%以上				

<p>【評価結果の説明・分析】</p> <p>1. 「緊急時における給水体制」については、超過件数の該当がなかったため、「達成している」としました。</p> <p>2. 「各種訓練等の実施率」については、関係所属及び給水区域内各市と相互に調整した結果、「非常時対応訓練」、「テーマ型訓練」、「給水区域内各市との合同訓練」などの訓練実施率の目標を上回ることが出来たため、「達成している」としました。</p>
--

○今後の進め方

今後の進め方	継続
<p>【評価結果の説明・分析】</p> <p>達成指標、成果指標ともに目標を達成し、順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。</p>	

○内部評価機関 (経営戦略会議) における評価	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
	(特記事項) なし

外部評価会議委員の評価	「主な事業の達成状況、主要施策の評価、 成果、今後の進め方」についての 評価の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法、手続きに則って、正しく評価されている。 ・最近では、自然災害等で水回りの問題は深刻な問題なので、訓練など継続していただきたい。 ・次期中期経営計画に向けて、わかりやすくしていくという意味で、成果指標については、一定の検討を行っていただきたい。
	A：妥当である 4人 B：概ね妥当である 0人 C：不十分である 0人	
外部評価会議委員の主な意見 等及び局の回答	<p>・給水区域内各市との合同訓練を年 11 回開催するということだが、これは全ての市が集まって行う訓練か。 (企業局回答) 全ての市が一堂に集まって行う訓練ではない。当局と給水区域内各市が、同日に個別に訓練を実施しているものである。</p> <p>・達成指標と成果指標との関係は連続しているものなので、達成指標が十分であれば、その成果が成果指標に現れるというのが、基本的なセオリーである。「緊急時における給水体制」という成果指標の方が本来の成果指標としての意味合いが大きいのではないかと思うので、場合によっては「訓練等の実施率」は達成指標の側に移し、「緊急時における給水体制」というもので、施策を代表する成果指標として取り扱ってもよいのではないかと、意見を申し上げ、検討いただきたい。</p> <p>・成果指標「緊急時における給水体制」について、目標「減・断水期間を 4 週間以内に抑える」に対し、実績としては「超過件数：該当なし」となっている。4 週間以内に収まったと思うが、断水の発生はあったのか。 (企業局回答) 一時的に減・断水が起きたことはあるが、4 週間を超過したものは無い。</p>	

《基本目標 2》「安全」な水の供給

主要施策（4）安全で安心な水づくり

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
12,395,232	11,954,051	1,331,199	13,301,030	7,539,380	5,503,553	13,042,933

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
①水源の監視・保全					
水源調査回数	○				
②高度浄水処理の導入					
ちば野菊の里浄水場（第2期）施設整備の推進（再掲）	○				
③水質管理の徹底					
水安全計画の見直しの実施	○				
水道GLPの認定維持	○				
水質検査計画の見直しの実施	○				
水質検査機器の更新の実施			○		
水質自動監視装置の更新の実施			—		
送配水管の計画洗浄延長	○				
貯水槽水道の適正管理啓発実施率、直結給水率	○				

○主要施策の評価

達成状況	達成している
<p>7つの項目について「達成している(100点)」、1つの項目について「未達成だが進展している(65点)」と評価したことから、施策全体としては、「達成している(95点以上)」と評価しました。</p> $\frac{100 \times 7 + 65}{8} = 95.625$	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況			
1. 水道水における水質基準超過件数	0件	0件	達成している			
過年度実績	R3	R4	R5	R6	R7	
1. 水道水における水質基準超過件数	0件					

【評価結果の説明・分析】
 水源の監視・保全や水質管理に係る各種取組を実施し、水源から蛇口に至るまでの水質管理を適切に行った結果、年間を通じて水道水の水質基準を遵守することができ、目標を達成しました。

○今後の進め方

今後の進め方	継続
<p>【評価結果の説明・分析】 一部の事業で世界的半導体不足の影響により、一部、進捗が遅れが見受けられましたが、今後は調達に関する事務を前倒しで実施するなど、計画どおりに更新できるよう努めることとしています。 主要施策の評価、成果指標の達成状況ともに、「達成している」と評価しており、施策全体としては概ね順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。</p>	

○内部評価機関 (経営戦略会議)	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
における評価	(特記事項) なし

外部評価会議委員の評価	「主な事業の達成状況、主要施策の評価、成果、今後の進め方」についての評価の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 達成状況でc「未達成だが進展している」があるが、総合的には、「達成している」ということで問題ない。 内部評価は適切かつ十分に行われている。 主要施策(4)は、達成指標と成果指標の関係性がはっきりとしており分かりやすい作りになっている。特に達成指標はいくつかの個別指標があるが、成果指標は水質基準の超過件数という形で一本化して、成果を集約しており、達成指標から成果指標へ連続性が確保されている。
	A: 妥当である 4人 B: 概ね妥当である 0人 C: 不十分である 0人	
外部評価会議委員の主な意見等及び局の回答	<ul style="list-style-type: none"> 直結給水率について、ホテルや病院等、直結給水が適さないところもあるので、100%にならないと思うが、企業局として最終的な目標値があり、それに向けて年々進めていくのか。(企業局回答) 給水装置はお客様の財産であり、直結給水に転換する費用については、お客様の負担になるため、企業局主体で直結給水化を進めることはできない。直結給水率の目標値については、直結給水率の推移や、新規に給水装置を設置されるお客様の直結式での申し込み状況などを考慮し、令和7年度の目標値を77.6%と設定している。なお、将来的な目標値については、お客様の選択次第のところもあるので、定めにくい状況にある。 企業局としては、直結給水にしてもらった方がよいのか。(企業局回答) 10 m³以下の小さな貯水槽水道については、適正に管理されていないと水質に影響が出る可能性がある。安全でおいしい水を直接お客様の蛇口までお届けできるようにするため、直結給水の促進に取り組んでいる。 目標値として直結給水率というものを指標化しているが、目標値自体を定めにくいということであれば、直結給水率を指標とした目標設定自体を、見直していく必要があると思うが、いかがか。(企業局回答) 次期中期経営計画では、目標設定の仕方や、目標として設定すべきかについても検討したい。 	

主要施策評価シート

様式 2

《基本目標 2》「安全」な水の供給

主要施策（5）おいしい水の供給

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
269,952	268,044	0	268,044	248,126	0	248,126

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
①おいしい水の技術的な取組					
残留塩素の低減化試験等の実施	○				
送配水管の計画洗浄延長（再掲）	○				
貯水槽水道の適正管理啓発実施率、直結給水率（再掲）	○				
②おいしい水のお客様との取組					
イベント等 PR 活動の実施	○				
水質検査体験実施・開催回数、 おいしい水検定実施・開催回数、 おいしい水懇話会実施・開催回数	○				

○主要施策の評価

達成状況	達成している
<p>主な事業に係る達成指標について、全ての項目で目標を達成したことから、施策全体として「達成している」と評価しました。</p>	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況		
1. 水道水の飲み水としての満足度	80%以上（令和 7 年度）	85%	達成している		
過年度実績	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1. 水道水の飲み水としての満足度	85%				

【評価結果の説明・分析】
 成果指標については、「水道水の飲み水としての満足度」が目標の 80%を超え 85%と成果が出ていることから、「達成している」と評価しました。

○今後の進め方

今後の進め方	継続
<p>【評価結果の説明・分析】 達成指標、成果指標ともに目標を達成し、順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。</p>	

○内部評価機関 (経営戦略会議)	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
における評価	(特記事項) なし

<p>外部評価会議委員の評価</p>	<p>「主な事業の達成状況、主要施策の評価、成果、今後の進め方」についての評価の妥当性</p> <p>A：妥当である 4人 B：概ね妥当である 0人 C：不十分である 0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・達成状況等の評価も問題なく行われている。 ・主要施策（5）については、達成指標と成果指標との関係が明瞭に示されており、またそれぞれの項目ごと内部評価についても適正であると評価する。
<p>外部評価会議委員の主な意見等及び局の回答</p>	<p>・「残留塩素の低減化試験の実施」について、令和3年度から7年度まで5年間の計画として「低減化試験の実施」が続いているが、低減化試験は5年間の計画期間があつて、計画期間終了後に低減化が実行されるのか。</p> <p>(企業局回答) 残留塩素の低減化は、試験により浄・給水場の出口で注入する塩素注入量を一時的に減らし、配水区域末端の残留塩素濃度を連続的に測定することで、水道水の安全性が確保されていることを確認できれば、実際に配水残留塩素を低減していくというものである。</p> <p>令和3年度は、柏井浄水場と園生給水場の区域を対象として、試験を実施したが、配水区域の一部に残留塩素濃度の低い箇所があつたため、引き続き令和4年度も同じ区域を対象として、追試験を行う。現在は、成田給水場の設備の更新工事に合わせた塩素注入点の整備を進めており、工事終了後、そのエリアで改めて低減化試験を行う。</p> <p>このように、計画を順次立てながら、実施可能な区域の選定をし、試験の結果可能ならば、その都度配水残留塩素の低減を行う。</p> <p>・試験の計画について、終了年度はいつか。</p> <p>(企業局回答) 「安全・おいしい水プロジェクト2021-2025」に基づき、2021-2025という年度の中で取り組むものであるため、現中期経営計画の期間である令和7年度まで実施していく。</p>	

《基本目標 3》お客様からの「信頼」の確保

主要施策（6）お客様サービスの向上

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
94,076	83,138	0	83,138	75,822	0	75,822

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
①支払方法の多様化や手続き等のオンライン化					
支払方法の多様化及び手続き、問い合わせ・御相談等のオンライン化の実施状況	○				
②「お客様の声」を活かした事業運営（広報・広聴の充実）					
アンケート情報収集割合				○	
業務改善数	○				
広報活動の改善状況	○				

○主要施策の評価

達成状況	概ね達成している
3つの項目について「達成している(100点)」、1つの項目について「進展していない(25点)」と評価したことから、施策全体としては、「概ね達成している(75点以上95点未満)」と評価しました。	
$\frac{100 \times 3 + 25}{4} = 81.25$	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況		
1. 県水だより満足度	90.0%以上（毎年度）	87.1% (標本誤差を加味して 85.1%~89.1%)	概ね達成している		
2. ホームページ満足度	80.0%以上（毎年度）	65.9% (標本誤差を加味して 63.8%~68.0%)	概ね達成している		
3. お客様サービス満足度	90.0%以上（毎年度）	92.3%	達成している		
過年度実績	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1. 県水だより満足度	87.1%				
2. ホームページ満足度	65.9%				
3. お客様サービス満足度	92.3%				

【評価結果の説明・分析】

1. 県水だより満足度については、広聴結果等を踏まえて、お客様の関心が高い安全な水や災害への備え、図や写真、目立つ見出しを活用した紙面づくりなどの創意工夫を実施しました。しかし、実績値は87.1%で、標本誤差を加味してもわずかに目標値を下回る結果となりました。

目標をわずかに達成できませんでしたが、引き続きお客様の声を活かした紙面づくりに取り組むとともに、お客様に興味を持っていただけるような図や見出しを活用し、当局の事業をわかりやすくお伝えすることで、満足度向上を図ります。

2. ホームページ満足度については、トップページから直接問い合わせが多いページに行けるようリンクを設定するなど、より見やすいホームページとなるよう改善を図りました。しかし、実績値は65.9%で、標本誤差を加味しても目標値を下回る結果となりました。

目標を下回った要因としては、「必要な情報は掲載されているので、現状で問題ない」といった声の一方、「役所感が出ていて、親しみやすくはない」「文字だけのサイトでなく、もっと写真や動画を入れて活動をアピールしたらどうか」といった声も寄せられており、満足していただけるホームページとなっていないといえる。ホームページを閲覧したほとんどの人が満足していただけるような、写真や動画などでのPRで、より効果的なホームページづくりに取り組みます。

3. お客様サービス満足度については、インターネットモニターのアンケート調査において、県営水道に関するお客様サービス満足度（総合評価）を調査したところ、「満足」「やや満足」の回答率が成果目標に達しており、各取組の成果が出ていると考えられます。

《参考 アンケートの標本誤差について》

県水だより満足度

- ・回答者数 512 人
- ・回答比率 72%
- ・標本誤差 $100 \times 1.96 \sqrt{\{0.72(1-0.72)/512\}} = 3.87$ (誤差の半値 2.0%)
- ・実績値の誤差範囲 (実績値に標準誤差の半値を加味) $87.1 \pm 2.0\% = 85.1\% \sim 89.1\%$

ホームページ満足度

- ・回答者数 515 人
- ・回答比率 66%
- ・標本誤差 $100 \times 1.96 \sqrt{\{0.66(1-0.66)/515\}} = 4.10$ (誤差の半値 2.1%)
- ・実績値の誤差範囲 (実績値に標準誤差の半値を加味) $65.9 \pm 2.1\% = 63.8\% \sim 68.0\%$

○今後の進め方

今後の進め方	継続
【評価結果の説明・分析】	
<p>一部の事業で新型コロナウイルスの影響により、目標を下回った項目があったものの、継続してインターネットモニターによるアンケート調査を実施するほか、現地イベントの開催の可否に左右されないアンケート実施手段を検討し、実施することとしています。</p> <p>主要施策の評価については「概ね達成している」、成果指標の達成状況については、「達成している」又は「概ね達成している」と評価しており、施策全体としては概ね順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。</p>	

○内部評価機関 (経営戦略会議)	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
における評価	(特記事項) なし

外部評価会議委員の評価	<p>「主な事業の達成状況、主要施策の評価、成果、今後の進め方」についての評価の妥当性</p> <p>A：妥当である 4人 B：概ね妥当である 0人 C：不十分である 0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アンケート情報収集割合」について、量的に見て達成していないから d 評価という点が、個人的にはそれ程気にしなくともよいのではないかと印象があるが、主要施策が概ね達成しているということには異論はない。 ・成果指標の関係性については、改めてまた次期中期経営計画に向けて検討いただきたいことを加えたくえで、妥当であると評価する。
評価会議委員の主な意見等及び局の回答	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における適切な情報発信は非常に重要なことなので、より詳細な情報があれば積極的に発信していただきたい。 (企業局回答) ホームページやツイッターでの発信方法を改善していく。 ・広聴・広報自体は、相互に関連するものであるが、媒体としては、県水だより、ホームページといった広報活動は、局の方から利用者や県民に、情報をお伝えすることが主たるルートになり、それに対して広聴の場合にはアンケート等、様々な形で意見を幅広く吸収していくという違いがある中で、具体的な、達成指標と成果指標との扱いについて、関係性がわかりにくいのではないかと。全体をカバーする成果指標として、お客様サービスの満足度というものがあれば、これに 1 本化しても良いのではないかと。次期中期経営計画に向けて検討していただきたい。 	

《基本目標 3》お客様からの「信頼」の確保

主要施策（7）大規模事業者の責務と社会貢献

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
472,546	473,977	0	473,977	343,600	0	343,600

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
① 県内水道の統合・広域連携 [※]					
—					
② 環境負荷の低減に向けた取組					
再生可能エネルギー発電設備活用による発電量	○				
浄水発生土の再資源化率、 再利用可能な建設発生土の再資源化率、 建設副産物の再資源化率	○				
③ 国際貢献及び他事業者への技術支援					
海外水道事業者への技術支援	○				
県内水道事業者へ開放する研修講座数			○		

○主要施策の評価

達成状況	概ね達成している
3つの項目について「達成している(100点)」、1つの項目について「未達成だが進展している(65点)」と評価したことから、施策全体としては、「概ね達成している(75点以上95点未満)」と評価しました。	
$\frac{100 \times 3 + 65}{4} = 91.25$	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況		
1. 二酸化炭素排出量削減	3,300t-CO2/年（毎年度）	2,941t-CO2/年	概ね達成している		
過年度実績	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1. 二酸化炭素排出量削減	2,941t-CO2/年				
【評価結果の説明・分析】 太陽光発電やマイクロ水力発電による電力の削減、発生土のリサイクルなどにより二酸化炭素排出量削減を図りました。各取組により2,941t-CO2/年の成果が得られましたが、目標には及ばなかったため、概ね達成しているとしました。来年度も引き続き二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいきます。					

○今後の進め方

今後の進め方	継続
【評価結果の説明・分析】 一部の事業で新型コロナウイルスの影響により、目標を下回った項目があったものの、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、適切に開催できるよう努めながら、引き続き、県内全ての水道事業者及び用水供給事業体に、県営水道が行っている水道技術研修（4講座）を開放し、技術向上を支援することとしています。 主要施策の評価、成果指標の達成状況ともに、「概ね達成している」と評価しており、施策全体としては概ね順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。	

※ 本取組の検討主体は知事部局であることから、評価の対象からは除外します。

主要施策評価シート

様式 2

○内部評価機関 (経営戦略会議)	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
における評価	(特記事項) なし

外部評価会議委員の評価	「主な事業の達成状況、主要施策の評価、 成果、今後の進め方」についての 評価の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・特に異論はなく、妥当である。 ・達成指標と成果指標の関係性については、引き続き検討いただきたい。その上で、今の中期経営計画の評価の仕組みの上では、適正かつ妥当な評価である。
	A：妥当である 4人 B：概ね妥当である 0人 C：不十分である 0人	
外部評価会議委員の主な意見 等及び局の回答	<p>・「国際貢献及び他事業体への技術支援」について、海外と県内の水道事業体への支援はあるが、自然災害等々で問題を抱えている県外の地方の水道事業体に対するサポート等、オールジャパンで考えるという発想はないのか。 (企業局回答) 災害が起これば、こちらから応援に行くことはある。その場合は日本水道協会から要請があり、逆に千葉県が被災した時には他県から来ていただくこともある。 災害応援の流れについては、まずは地元の県内事業体による応援、そして県内で対応できない場合には全国ネットワークを通じてという流れになっている。その仕組みの中に日本水道協会という団体がある。 また技術研修においても、日本水道協会が全国の水道事業体等へ向けて研修等を開催しており、当局としては、まずは千葉県内の水道事業体に向けて研修等を開放して技術的サポートを行っている。</p> <p>・施策の(7)において、「二酸化炭素排出量削減」が、代表的な成果指標としてあるが、その他に性格の違う海外と他事業体への支援といったものを挙げているので、達成指標と成果指標の関係性がわかりにくい。達成指標と成果指標は、本来連続性が確保されるべきものなので、評価の仕方に関わるテーマとして、次期中期経営計画に向けて検討いただきたい。</p>	

《基本目標 3》お客様からの「信頼」の確保

主要施策（8）運営基盤の強化

R3 年度最終予算額（千円）				R3 年度決算額等（千円）		
R3 当初予算額	R3 最終予算額	R2→R3 繰越	計	決算額	R3→R4 繰越	計
26,367,101	25,267,139	5,342,579	30,609,718	20,678,636	8,642,731	29,321,367

○主な事業の達成状況

項目	達成している	概ね達成している	未達成だが進展している	進展していない	備考
① 職員の育成・確保及び能力開発					
技術研修等講座数	○				
人材育成等を目的とした局独自の研修の実施、改善		○			
事業運営に必要な執行体制の確保	○				
② ICTや民間活力の活用による業務の効率化					
支払方法の多様化及び手続き、問い合わせ・御相談等のオンライン化の実施状況（再掲）	○				
ICT（情報通信技術）等の活用による業務の効率化に向けた検討	○				
配水管等整備工事に伴う施工管理業務の民間委託の実施	○				
③ システムの安定運用及びセキュリティ対策の強化					
情報システム等の整備件数		○			
情報セキュリティ研修等受講者数	○				
障害等への即日の初動対応率	○				
④ 健全経営の推進					
経費の削減	○				

○主要施策の評価

達成状況	達成している
8つの項目について、「達成している(100点)」、2つの項目について「概ね達成している(90点)」と評価したことから、施策全体としては、「達成している(95点以上)」と評価しました。	
$\frac{100 \times 8 + 90 \times 2}{10} = 98$	

○成果指標の達成状況

成果指標	目標	実績	達成状況		
1. 経常収支比率	財政収支見直しにおける数値以上 (R3:101.9%)	112.1%	達成している		
2. 自己資本構成比率	財政収支見直しにおける数値以上 (R3:78.3%)	79.2%	達成している		
過年度実績	R3	R4	R5	R6	R7
1. 経常収支比率	112.1%				
2. 自己資本構成比率	79.2%				

【評価結果の説明・分析】

1. 新型コロナウイルス感染症の影響が継続していることに伴う使用水量の減などにより、給水収益が減少(約4億円減)したものの、上下水道料金徴収一元化参加市負担金の増(約7億円増)などにより、経常収益は前年度並みとなりました。一方、償却資産の増により減価償却費が増(約6億円増)となったものの、入札に伴う単価の減などによる薬品費の減(約4億円)や支払い利息の減(約2億円減)などにより、経常費用は約1億円の減となりました。この結果、経常収支比率は前年度(112.0%)と比較して0.1ポイント上昇し、112.1%となり、目標である101.9%を超えていることから、「達成している」と評価しました。

2. 負債は、企業債残高が増(約15億円増)したものの、未払金の減(約30億円減)などにより、約18億円減少しました。一方、資本+繰延収益は令和3年度に約85億円の利益を計上したことなどから、約47億円増加しました。この結果、自己資本構成比率は前年度(78.9%)と比較して0.3ポイント上昇し、79.2%となり、目標である78.3%を超えていること

から、「達成している」と評価しました。

○今後の進め方

今後の進め方	継続
<p>【評価結果の説明・分析】</p> <p>一部の事業で新型コロナウイルスや世界的な半導体不足の影響により、目標を下回った項目があったものの、人材育成等を目的とした局独自の研修の実施、改善については、引き続き社会情勢を踏まえ、感染症拡大防止に配慮した研修を検討すること、情報システム等の整備については、引き続き安定的な情報システムの運用に向けた整備を行うこととしています。</p> <p>主要施策の評価、成果指標の達成状況ともに、「達成している」と評価しており、施策全体としては概ね順調に進捗していることから、引き続き計画に沿って事業を実施していきます。</p>	

○内部評価機関 (経営戦略会議)	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
における評価	(特記事項) なし

外部評価会議委員の評価	<p>「主な事業の達成状況、主要施策の評価、成果、今後の進め方」についての評価の妥当性</p> <p>A：妥当である 4人 B：概ね妥当である 0人 C：不十分である 0人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経費の削減については今後検討していただき、評価は妥当とする。 ・人材の育成、確保について、柔軟な人事に関する運用を図って欲しい。
外部評価会議委員の主な意見等及び局の回答	<p>・「ICT等の活用による業務の効率化に向けた検討」について、計画が5年間「検討の実施」だが、これはその時々で検討するものが変わってくるのか。あるいは何かテーマがあるのか。 (企業局回答) 令和3年度は、庁内照会で職員にアンケートを実施し、課題のとりまとめをした。今年度は課題を洗い出し、アプリの活用による集計作業の効率化、ウェアラブルカメラを使った業務等、出来るものから試行している。そうした内容を都度検討・実施し、結果をまた報告していく。</p> <p>・企業局でICTに対してどういった問題を持っているか、はっきりしないと検討しようがないので、ICTにおける企業局としての課題を明記いただきたい。</p> <p>・「経費の削減」について、「経費の削減」を事業として取り上げ、計画を設定するのであれば、実績が「削減に努めた」というのでは弱い。実際にいくら削減したかというのが、成果になるので、経費の削減額等、何らかの数値目標を設定するべきである。 (企業局) 次期中期経営計画に向けて、研究していく。</p> <p>・人材の育成、確保については、今後の人口減少を踏まえると、日本全国で喫緊の課題になっており、成果指標の設定が望まれる。企業局としてもそこは承知し、今後、何らかの指標化を検討するという回答で結構だが、地方公営企業は、法的に独立採算制であり、自律的経営といったものが制度的に認められ、専門性の発揮が必要な組織であるにも関わらず、人事権については、知事部局のオール県政の中で取り扱われ、必要な人材の確保・育成が十分図られないということは、人事異動の問題も含め、全国的に改善していく必要がある。地方公営企業の基本的な建付けと性格について、柔軟な人事に関する運用を図って欲しい。</p>	